

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和２年度 学校評価重点計画

小松市立栗津小学校
学校長 村戸 幸江

目指す児童像

自分たちで、考え、計画し、行動する子

- な なかよく助け合い励まし合う子
- か かんがえ、学び合う子
- よ よく遊び、体を鍛え合う子
- し しっかりあいさつし合う子

目標

- ・日々の活動に目標を持ち、実現に向かって、自ら考え、計画し、行動する児童を育む。
- ・児童を愛し、認め、心にやる気の火を灯し、学び続け支え合う職員風土を醸成する。

（１）学校の現状と課題

明るく優しく素直な児童が多い。落ち着いた態度で学習に臨むことができ、学年を超えて協力しながら活動できる。課題は、自分たちで目標を見つけ、実現に向かって、自ら考え、計画し、行動することである。また、職員集団は若く意欲的である。今後、さらに働き方改革を推進し、子どもに向き合い、効果的効率的な指導法を身につけ、学び続ける職員集団を目指す。

（２）目標達成のための具体的な手立て

- １「日常生活に生きて働く」
 - ・学力の向上自分たちから学習する授業作りと家でもっとやりたくなる学習サイクルの確立
- ２ 仲間の居場所をつくる人間力の育成
 - ・児童と教師でつくる「学級目標の実現」と良さを認める「朝の会」「帰りの会」の実施
- ３ 健やかな体の育成
 - ・自分を大事にするメディアコントロールと栗津オリンピック及びスポチャレいしかわの取組
- ４ 学び続け支え合う職員風土の醸成
 - ・子どもに向き合い教材準備をする日課の工夫と効果的効率的かつ実践的な短時間 0JT の工夫